

# SA 吹田 通信 第16号

2004年9月

発行 SA 吹田 事務局 〒565-0821 吹田市山田東4-41-4-506  
TEL&FAX 06-6876-1437

## ◆◆◆視覚障害者誘導勉強会に参加して◆◆◆

小北 月子 (SA13期)

9月17日(金)午前10時~12時まで北千里公民館で、視覚障害者の誘導方法を、ナルクで活躍されている藤岡武さん(SA12期)にご指導いただきました。今後SA吹田が、山手小学校、北山田小学校の児童を対象に実施する体験学習に備えての勉強会で、8月に実施された車椅子体験および介助の学習会とセットになっています。

当日の参加者は8名で、はじめに配られたガイドヘルプ・マニュアルに沿って順次説明を受けました。全視覚障害者の内3分の2が60歳以上であり、障害の等級は1~6級まであって同じ等級でも人によって違うそうです。誘導ボランティアの心得、介護のポイントと留意点、ガイドヘルプの実際など。次に15分間のビデオを見て、誘導ボランティアの役割の勉強をしました。はじめに視覚障害者(藤岡さんのご説明で視覚障害者の方を「目の人」と呼ぶことを知りました)と出会い、どこへ案内するかを聞き、地下鉄に乗るための切符を買い、電車に乗り、買物をし、一緒に食事をし、最後にまた地下鉄の乗り場までの誘導の方法のビデオでした。

最後にいよいよ体験実習です。二人1組で目の人とガイドヘルパーの役に分かれ、目の人役はアイマスクを付け、白杖を手に、半歩前を先行するガイドヘルパーの上腕を持ち、公民館を出るため階段を下ります。公民館から少し過ぎるとエスカレーターの前、二人同時にエスカレーターに乗り、次にエレベーター、降りて北千里駅へ、切符売り場の前で切符販売機に触って確認、ここで役割を交代しました。

アイマスクをつけるとほとんど状況がつかめず不安で、自分の前後、左右だけ理解できますが、そのほかはガイドヘルパーにすべてを預け、ガイドヘルパーだけを頼りにします。私たちは、情報の80%を目から得ていることを実感しました。階段、エスカレーターは慣れないと怖い思いをします。「危ないですよ」「気をつけてください」などというのは不安を与えるだけで言うてはいけない言葉だそうです。はじめに誘導者の役になりましたが、全く初めての経験でぎこちなく、目の人役の三好さんに怖い思いをさせたと思います。小学生の体験学習の日まで、何回も練習して経験を重ねる必要があります。実際に目の人が困っておられる場面には、勇気を出して声を掛けてみようと思っています。実際にヘルプガイドをされている藤岡さんの体験によるお話などあり、充実した有意義な体験学習でした。

## ◆◆◆第4回「あいほうぶ夏祭り」◆◆◆

田中 富子 (SA16期)

9月4日(土)「大阪府北部も、お昼過ぎには雨が降り出すでしょう」と言う無常な天気予報を聞きながら雨天決行だもん、とにかく行かなくては・・・と2時に集合。しかし予報に反して雨の降り出しは遅く、4時の開会には薄日さえさしてきた。途中、一時の雨はあったが踊りの輪が出来るところにはまたあがるという、予報はずれが幸いしたお

祭りとなった。我々サポート吹田16はこの夏祭りへの参加は始めてである。9名の参加者は、先輩SAの方々の中に分散して入れていただき、的あて・スーパーボールすくい・



喫茶・袋つり・販売などのコーナーを担当した。私はサポートの野原さんやドリームネットの方と一緒に的あてを担当した。紙テープで吊るした袋を水鉄砲で落とすという単純な遊びであるが、オリンピック競技の射撃のイメージもあってか、子どもたちは狙い定めてかつよく打ち落とす。利用者さんも一生懸命操作して、打ち落とされると満足して、微笑がこぼれる。日ごろボランティアで参加している喫茶での顔見知りになった利用者さんと会えるのもうれしい。お父さんコーラ

ス、中学生のソーラン、盆踊り、和太鼓の響きなどで盛り上がり、準備された100個の袋は、7時を待たずに終了した。地域に開かれ、地域に密着した施設のあり方を垣間見ることが出来た取り組みだった。汗びっしょりの半日だったが、その疲れはさわやかで心地よく、帰り道の足取りは軽かった。思わず「来年も行こうね」と仲間内で約束してしまった。

## 『SSラリー』活動報告

奥谷 英夫 (SA16期)

9月12日(日)片山公園で開催された「SSラリー」(吹田市青少年活動研究会主催)に「サポート吹田16」の仲間16名が参加し、好天の下吹田市内の子どもたち186名を相手にクラフト、車椅子体験、崖のぼり体験の3コーナーを担当しました。クラフトコーナーでは8名の会員が3種類のおもちゃ(アンパンマン・ドラエモン・ピカチュウ)を合計では、79個以上子ども達と作り、出来上がったおもちゃを手にして喜ぶ歓声が公園内に響いていました。車椅子体験コーナーは会員5名が担当しました。9時過ぎから準備を始め、橋や坂道、段差を組み込んだコースを設定し、看板や矢印等も取り付けました。親と一緒に乗る子ども、親に押しってもらう子ども、自分で操作し一生懸命坂道を登ろうとする子どもなど様々でしたが、大人に押しってもらう車椅子体験にみんな心地よさそうでした。体験後ほとんどの子どもが“たのしかった”“面白かった”“もう一度乗りたい”と言ってくれました。崖のぼり体験コーナーは会員3名とロープの結び方に精通した原田さんの4名で担当しました。午前中しばらくは朝の雨の影響で粘土質の土が滑りやすい状態でしたが、高低差7~8Mの崖を元気に駆け登り、下りは慎重に後ろ向きに下りる子どもたち134名で午後2時半過ぎまで賑わいました。9月とはいえ、残暑のなかの体験活動コーナーは、私たちシニアにとっては少々きつい活動でしたが、子どもたちの笑顔やお礼の言葉に疲れも吹っ飛ばす楽しい一日となりま



した。参考までに『SSラリー』の開催要項の一部を転載します。

〔趣旨〕吹田市における青少年健全育成協調月間に協賛しこの事業を行う。

〔目的〕野外においてクラフト・軽スポーツなどを行うことによって、青少年の身体的・情緒的発達を促し、自主性・社会性・創造性を育てることを目的とする。

〔参加者〕吹田市内の子ども

〔形式〕催しコーナーをまわるポイント形式

※全てのコーナー（14ヶ所）をまわればゴールで合格印とノートが貰える。

## 第50回全国盲女性記念研修大会に参加して！

岩城 延重（SA13期）

吹田ボランティア連絡会の依頼により大会にV活動として、8月26日大阪都ホテルでの記念式典に参加しました。大会は8月24日より26日まで開催され、吹田ボランティア連絡会の、各ボランティアグループより、数十名の方々が参加されました。24日に大阪駅で、北は北海道から、南は沖縄より参加された盲女性をお迎えし、ホテルまでの介助誘導に始まり、ホテル内での記念研修大会時の介助誘導などが主たる活動でした。私たち男性3名は、連絡会参加Vグループ「つくしんぼ」のメンバーで、26日を担当しました。視覚障害者の介助は、3名とも初めてのためうまく出来るか、不安を持っていましたが、集合時間にホテルに到着して、夫々分担表を頂き、指示を受け活動開始となりました。私は、新潟県の方3名、他の2名は長野県の方十数名をそれぞれ担当することになりました。あらかじめ作成された都道府県名と歓迎の言葉が記載された掲示板を掲げ、ホテルの記念大会会場内（浪速の間）の指定された都道府県名の座席前でお迎えすることになりました。会場内は、各々担当されるボランティアの方々と参加者で一時は大変混雑していましたが、開会前には、落ち着き全員着席されました。でも、あちらこちらで、久しぶりにお目にかかれるご友人との会話が弾み賑やかでした。毎年このような会があり、お友達を作られたのか他府県の方々との交流を楽しんでいるようでした。

私の担当の新潟のお方も、次々に訪ねてこられる他府県の方と交流を楽しまれておりました。空いた席にかけさせていただき、お話をする機会に恵まれて、二三勉強になることもお伺いできましたので、今回拙文ですが記事を提出させていただきました。担当させていただいたお二人の内の一人の方は、盲導犬をお連れになっておりました。盲導犬はおとなしく、大会の開始から終了するまで腹ばいになって休憩しておりましたが、常にお連れの方の動きを注視しているようで、寝たりなどせず、ずっと神経を尖らせているようでした。当日は、他にも盲導犬が会場に入っておりましたが、楽団の演奏にも驚かず、静かにご主人の動作を注視しているようでした。もうお一方ともお話する機会を得ましたのでご紹介しておきます。私たちボランティアには黄色い櫛が支給されて掛けておりましたが、その方がおっしゃいましたのは、視覚障害者には、やはり鈴か何か音のするものを、ボランティアさんがつけて頂いておれば随分助かるのですがと話されて、はっとしました。主催者側に申し伝えねばと思いました。また段差については、誘導時に小さな段差を段差段差と発言しないようお願いしたいとも話されました。敷居のような段差はあまり段差とは捉えていないと言っておられました。エスカレーターは、乗る前にしっかりと手すりを持たせて頂ければ、よろけることもなく利用できる旨話がありました。全ての視覚障害者に通じるとは思いませんが、的を射てる事はあると考えさせられました。楽団の演奏でヒット曲ピンクレディ歌・大阪に因んだ歌等が演奏され始めると、一緒に口ずさむと共に、大変喜ばれている様でした。26日は記念研

修大会の最終日の閉会式でもあり、久しぶりに皆様とご一緒に「君が代」を斉唱したことが大変印象的でした。お二人は特に途中では移動されることもなく、誘導介助もありませんでした。お茶の接待をさせて頂いたことが唯一の活動だったようです。25日は体験発表などもっと素晴らしいお話もあったと聞きました。2005年は広島県福山市で開催されるとのことでした。大阪は日盲連の発祥の地でもあるようです。認識を新たにすることが出来たボランティア活動でした。

#### 私のある日のボランティア活動

橋 ユミ子 (SA14期)

月に一回になります。弘済院の特老の喫茶室で、コーヒー・ジュース・紅茶とみなさんの好きなものをお出しするボランティアをしています。部屋の中ではおしゃべりできないことなども、ここでは女性は気楽にペチャペチャよく話し出します。また私たちボランティアと話すのを楽しみに来られます。男性はテレビを見たり（やっぱり野球が一番）、新聞をゆっくり読んだりしてくつろいでいます。平均年齢80才～90才、100才以上の方もおられます。超高齢者ばかりに囲まれての、このひと時だけはわたしも若さを十分味わっております。

#### 『公園を見守ろう会』からのお願い

前回の14号にも掲載しましたがSA吹田の『公園を見守ろう会』の趣旨をご理解いただき、散歩や買い物のついでにちょっと地元の公園に立ち寄り、遊具の破損やネジのゆるみ等がないかを調べてください。万一、異常があれば公園課に電話、FAXでお知らせしてください。

公園課

TEL06 (6834) 5366

FAX06(6834)5486

担当 橋 ユミ子 (SA14期) 小北月子 (SA13期) 三好桂子 (SA13期)

#### SA吹田活動予定表 (10月～11月)

- 10月2日(土) おもちゃづくり市民塾 北千里公民館 10時～12時
- 10月14日(木) 日本語を知ろう・学ぼう・お話しよう やまびこ  
北千里公民館 午前10時～12時
- 10月18日(月) SA吹田役員会 10時～12時 南千里公民館
- 10月21日(木) 午前 車椅子体験学習と擬似視覚障害体験 山手小学校
- 10月23(土)～24日(日) 終日 江坂公園 緑のふれあいに参加
- 10月28日(木) 箕面養護学校 おもちゃ作り指導 15時～17時
- 10月下旬～11月中旬 千里高校 竹細工指導
- 11月28日(日) ミニ文化交歓会 桃山台小学校地域交流室 13時～16時

**編集後記** SA15周年記念特集号の発行準備をしています。「シルバー通信」既刊号・吹田支部総会議案書などお持ちの方は資料の提供をお願いします。SA連協のホームページも情報・内容も充実してきました。ご一読ください。

<http://sa-renkyo.com>